

ポスト新自由主義体制下における都市周縁層の社会的排除と処罰に関する国際比較研究

田中, 研之輔 / TANAKA, Kennosuke

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

5

(発行年 / Year)

2014-06

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22683011

研究課題名(和文) ポスト新自由主義体制下における都市周縁層の社会的排除と処罰に関する国際比較研究

研究課題名(英文) Social Exclusion and Spatial Segregation of the Advanced Marginalization in the Post Neoliberal State

研究代表者

田中 研之輔 (TANAKA, Kennosuke)

法政大学・キャリアデザイン学部・准教授

研究者番号：30513204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,500,000円、(間接経費) 1,950,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで行ってきた新自由主義体制下で新たに形成される都市周縁層の空間的隔離と社会的排除に関する研究を、(1)社会集団内(米国不法移民、野宿生活者)分析から社会階層(本研究では、とくに、都市周縁層)分析へと深化させるとともに、(2)都市周縁層の社会的排除から社会的処罰・犯罪化への厳罰化に関する社会政策過程に関する日米比較研究を行っていく。

具体的には、米国と日本での4年間の継続調査をもとに、1)社会的排除から社会的処罰・厳罰化、2)都市周縁層の国際比較分析を行ったうえで、3)新自由主義国家の刑罰論的転回について社会学的な国際比較実証研究を加えた。

研究成果の概要(英文)：Rethinking of "Regulating the Poor", which argues the shifts from regulating civil disorder to regulating labor(Piven and Cloward, 1993,343) in industrial capitalism, Wacquant states the "central role of relief in the regulation of marginal labor and in the maintenance of social order is displaced and duly supplemented by the vigorous deployment of the police, the courts and the prison in the newer regions of social space (Wacquant,2008).Based on the observant participation (not just mean participant observation) since 2006,this study demonstrates on the process and structure underming the precarious social network and quasi-convertible bodily capital of undocumented workers in US.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：都市周縁層 社会的排除 空間的隔離

様式 C-19、F-19、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表としてこれまで取り組んできた、①「現代都市再開発期における公的空間の公共性と文化的実践による空間形成の都市間比較」(2004-2006年、一橋大学)、②「現代都市再開発期の空間的隔離と社会的排除に関する研究—都市生活と諸制度の関係性—」(2007-2008年、東京大学)、③「新自由主義体制下における都市周縁層の空間的隔離と社会的排除に関する日米比較研究」(2009-2010年、法政大学)の研究成果をもとに、第一に、空間的隔離の今日的手法である「ジェントリフィケーション」・「ゲイティッド・コミュニティ」の余波で都市の周縁へと追いやられ「単身低賃仮宿、監獄・刑務所、路上生活」をする者たちの「社会層」の生活世界の分析を行う。第二に、都市周縁層の社会的排除から社会的処罰・犯罪化への厳罰化に関する社会政策過程分析を展開する。そして、第三に、本研究で取り組む日米比較分析とともに申請者を含む「都市周縁層に関する国際ネットワーク」に所属する英国・スペイン・中南米諸国の研究者との国際比較分析へと展開していくことを本研究の出発点に据えた。

2. 研究の目的

本研究は、これまで行ってきた新自由主義体制下で新たに形成される都市周縁層の空間的隔離と社会的排除に関する研究を、(1) 社会集団内(米国不法移民、野宿生活者)分析から社会階層(本研究では、とくに、都市周縁層)分析へと深化させるとともに、(2) 都市周縁層の社会的排除から社会的処罰・犯罪化への厳罰化に関する社会政策過程に関する日米比較研究を行っていく。

具体的には、米国と日本での4年間の継続調査をもとに、1) 社会的排除から社会的処罰・厳罰化、2) 都市周縁層の国際比較分析を行ったうえで、3) 新自由主義国家の刑罰論的転回について社会学的な国際比較実証研究を加えていく。

3. 研究の方法

本研究は、1) 社会政策過程分析—新自由主義国家の社会福祉政策と刑罰政策(平成22年度重点課題)、2) 都市空間分析—「ジェントリフィケーション」「ゲイティッド・コミュニティ」(平成22年度23年度の継続重点課題)、3) 労働・生活世界分析—リフレクシブ・フィールドワーク(平成22年度23年度の継続重点課題)を計画的に行ってきた。

と同時に、本研究の主要テーマである国際比較分析に関しては、これまで申請者が

在外研究で構築してきた国際ネットワーク組織を最大限に活用することで、個人研究で取り扱えない領野・対象を適宜連動させてきた。なお、国際会議等での報告、英文ジャーナルでの成果報告を積極的に行ってきた。国内学会報告では、1) 日本社会学会、2) 関東社会学会、3) 地域社会学会、4) 日本都市社会学会の4学会で研究成果を報告した。

4. 研究成果

都市周縁層の国際比較分析の先端研究としてロイック・ヴァカンによる“Punishing the Poor: The New Government of Social Insecurity”(2008)がある。ヴァカンは本書の冒頭で、ここ数十年の先進諸国における新自由主義の支配的趨勢と刑罰政策との密接な結びつきを指摘している。とりわけ、次の6点①都市的な異質性への厳格な処罰、②厳罰体制への法改正と犯罪監視装置の配備、③メディアや専門家による都市不安へのデマゴーク、④都市周縁層のステイグマ化、⑤刑務所等矯正施設の民営化、⑥警察組織の拡大と強化(Wacquant, 2008, pp. 123-124)、の共通点がみられる。

都市不安を専門家が煽り、一般市民がこれらの言説を受容し過熱化させ、とくに、都市部でみられる周縁層—若年失業者、路上生活者、ドラッグ中毒者、路上売春婦等を監視し、処罰していくという傾向が米国のみならず、先進諸国においてグローバルな社会動向として確認される。もちろん、都市部に浮遊する周縁層に対するステイグマ化は、とりわけ、新しい問題というわけでない。これから検討する新自由主義と刑罰政策の結びつきが、新たな都市問題に対応すべく生じたことではないということをも本研究の前提としてまず確認しておく必要がある。

本研究を進める上で、次の三点の歴史的・社会的変化に着目した。第一に、都市滞留層の**激増**である。とくに、1970年中期以降に米国でみられるのは、フォード主義の衰退にともなう安定的賃金労働者の減少とそれと反比例して激増した不安定賃金労働者が増加した。不安定層の増加は、第二に、社会的精神的不安の上昇+蔓延である。そして、第三に、グローバルな資本と労働の流動化である。

これらの問題は、生起時期や程度の差はあれ、先進諸国において共通にみられる歴史的変化であり、近年、わが国でも議論されている問題群である。これらの社会歴史的変化の生産・再生産の駆動要因となっているのが、新自由主義政策下の国家の経済的義務の縮小であり、警察・司法・矯正政策の連動による刑罰体制の強化である。こ

うした刑罰体制の有効性は、(1) インフォーマル経済への労働力流入の抑止、(2) 見捨てられ人の強制収容、(3) 刑罰部門に関する日常生活領野での国家的役割の再強化にある。

これらの先端研究蓄積を踏まえて本研究では、新自由主義と社会的排除の関係性、ならびに、新自由主義国家の刑罰論的転回について検討を加えてきた。ここで新自由主義国家の刑罰論的転回とは、単に経済的貧窮層の社会的排除ではなく、社会権利的・社会存在的に深刻な状況におかれている〈脆弱な貧者〉を処罰していく〈監視社会から監獄化社会〉への社会的変化を先導する国家の刑罰志向への転回をさし、強力な実践的効力を持つものである。

ヴァカンが論じる刑罰国家論の意義は、デヴィッド・ハーヴェイの新自由主義国家論とジョック・ヤングの排除型社会論とともに乗り越える視座を提示しているところにある。1970年代後半以降、資本蓄積のための新たな市場開拓を狙った共有財産の民営化、公共部門（公益事業・公営住宅等）の規制緩和、社会福祉事業からの国家の撤退、といった現象に代表される新自由主義レジームが、グローバルな資本主義の論理に適合する支配的な言説様式として瞬く間に大多数の国家の政治・経済システムを凌駕していった（デヴィッド・ハーヴェイ、2007『新自由主義』作品社）。経路・形態・強度には偏差があるものの新自由主義国家政策は、英国や米国にとどまらず、社会民主主義的福祉国家として存立していたニュージーランドやスウェーデン、アパルトヘイト体制崩壊後の南アフリカ共和国や中国においても受け入れられることになった。というのも、新自由主義は、第一に、地理的不均等発展の度合いがより激しく不安定になるなか、ある地域・都市・国家が、他の地域を犠牲にして目覚ましい発展を遂げたこと、第二に、実際のプロセスとしての上層階級の観点からは多大な利益をもたらしてきた（ハーヴェイ、同上、p. 219）ことからグローバルな状況で賞賛されてきたからである。

国家は、ひとたび新自由主義化すると「上層階級から下層階級への『埋め込まれた自由主義』時代の流れを逆転させるような再分配政策の主要な担い手」（ハーヴェイ、同上、p. 228）となり、「低賃金使い捨て労働者」、「不安定労働者」、「失業者」を多量に生み出し、社会階層の底辺に位置する人々の労働環境・条件を悪化させる。1980年代から90年代にかけて、新自由主義の弊害は、労働市場の再編—分割による多量な失業者を構造的に生み出していくという社会的排除を社会問題化した。

こうして新自由主義体制が加速させた現代社会の構造的・経済的变化の結果生み出された従来の社会保障制度では対応できない社会層に対して、イギリス・フランスで

は、「社会的排除」論、米国では、「社会的周縁層」という概念を用いて検討が加えられてきた。欧米において社会的歴史的文脈は異なるものの、それぞれ別の概念でもって、同時代的に「新たな社会的不平等」が問題視されている経緯は注目に値する。

社会的排除の概念は、1980年代にフランス、90年代初期以降にはイギリスで用いられるようになり、野宿生活者、シングルマザー、単身高齢生活者、若年失業層にアプローチし、従来の「労働からの排除」ではなく、「労働の現場の手前あるいは外部での生活を強いられる社会からの排除」に着目し、とくに、社会的排除を生み出すプロセスに着目した。わが国においても、岩田・西澤らが、野宿者・単身女性親世帯・外国人労働者ら〈貧者〉の社会的排除の問題に取り組んできた（岩田正美・西澤晃彦編 2005『貧困と社会的排除』ミネルヴァ出版）。いわば、「新たな貧困層」を生み出す社会的メカニズムの過程を捉えることに社会的排除論は用いられてきた。

社会的排除論は、当事者の生活世界をとりまく巧妙な排除のプロセスを可視化するのに有効な視点を提起した。社会的排除論は、「新たな貧困層・周縁層」が工業化からポスト工業化社会への移行にともなう産業構造・就職機会構造の変化によって生み出されてきたことを前提とする。そのうえで、新自由主義体制下で社会的排除と社会的処罰がいかなる局面でどのように働くのかを都市周縁層に着目し、分析を加えた。

国内外での現地調査、インタビュー調査、先行研究の横断的研究を経て、本研究では、ロイック・ヴァカンの刑罰国家論が、従来の新自由主義国家論に見過ごされてきた重要な見地のラディカル見直しを要請している点を明らかにし、これらを踏まえて、本研究では、都市周縁層を空間的に隔離し、社会的に排除していく歴史的過程について空間分析を展開していくことの方法論的意義を導き出した。

さらに、本研究の成果を、「新自由主義下の都市滞留層」に関する国際ネットワークのプロジェクトと連動する形で進めてきた。その成果は、国際ネットワークでは、①専用ホームページ

(<http://www.advancedurbanmarginality.com/>) で随時、各国での現地調査の動向がまとめられている。②国際カンファレンスでも、毎年報告してきた。世界的研究者ネットワークの中で、カンファレンスのボードメンバーとして、研究深化への貢献、研究公開の共有と促進に携われたことは、本研究の特筆に値する大きな成果であるといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 田中研之輔「ジェントリフィケーションに関する認識論的枠組み:序説」『地域イノベーション Vol.4』、法政大学地域研究センター (2012.3) 査読無 pp. 75-79.
- ② 田中研之輔「パチンコホールの労働現場」、『法政大学キャリアデザイン学会紀要』(2012.3) pp. 61-73. 査読無
- ③ 田中研之輔「都市サブカルチャーズ論再考」、『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第9号、(2012.3) pp. 34-65. 査読無
- ④ 田中研之輔「パークリー校現代都市民族誌の研究動向—複数事例比較分析と再帰的民族誌—」『日本都市社会学会年報29』p. 143-159. (2011.9) 査読有
- ⑤ 田中研之輔「リスクと「統治性」—米国非正規滞在者の排除と処罰」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』(2011.3) 査読無 pp. 1-13.
- ⑥ 田中研之輔『地域と格差社会』「キーワード・地域社会学」(2011.3) ハーベスト社 査読無 pp. 211-213.
- ⑦ 田中研之輔「新自由主義国家米国の刑罰化」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』(2010.3) 査読無 pp. 34-48.

〔学会発表〕(計6件)

- ① Kennosuke, Tanaka, “Ethnographic Imagination and Intervention Reflexive Fieldwork of undocumented day labors sites in US Annual RC21 Conference 2011: The struggle to belong. Dealing with diversity in 21st century urban settings Amsterdam (The Netherlands), July 7-9 2011 Amsterdam Institute for Social Science Research - Urban Studies University of Amsterdam (オランダ)
- ② Kennosuke, Tanaka, “Advanced marginalization and the re-criminalization of undocumented immigrants in the US” Network for the Study of Advanced Urban Marginality International Conference on Territorial Stigmatization Instituto de Sociologia Faculdade de Letras Universidade do Porto 22 June 2011

(ポルトガル)

- ③ Kennosuke, Tanaka, “Advanced Marginalization and Re-Criminalization of Undocumented Immigrants in the Post Neoliberal State US. Contemporary Ethnography Across the Disciplines (CEAD) conference and hui at the University of Waikato in Hamilton, 11. 18. 2010, New Zealand.
- ④ Kennosuke, Tanaka, “Advanced Marginalization and Post-Neoliberal Criminalization URBAN OUTCASTS OF THE WORL Leverhulme Trust International Network THE CORE GROUP INCEPTION WORKSHOP 29th APRIL 2010 Hutton Room, 1st Floor, Institute of Geography, University of Edinburgh, Drummond Street, Edinburgh, EH8 9XP (イギリス)
- ⑤ 田中研之輔「都市サブカルチャーズ論再考」『テーマ部会:都市とサブカルチャー』日本都市社会学会 新潟大学 2011.9.7.
- ⑥ 田中研之輔「リスクと統治性」2010.6.20. テーマ部会A「リスクと排除の社会学」第58回関東社会学会大会 中央大学

〔図書〕(計8件)

- ① 田中研之輔「サービス産業におけるインターナルマーケティングの実態と課題」『法政大学キャリアデザイン学会紀要』第11号、(2014.3) pp. 35-46.
- ② 田中研之輔「調査を通じた学び—方法論」金山喜昭・児美川孝一郎・武石恵美子編『キャリアデザイン学への招待—研究と教育実践』ナカニシヤ出版、(2014.1) pp. 151-161.
- ③ 田中研之輔「働くものの目線」吉原直樹・近森高明編『都市のリアル』有斐閣、(2013.8) pp. 67-83.
- ④ Kennosuke, Tanaka, “Advanced Marginalization and Re-criminalization of Undocumented Workers in the U.S” Robert E. Rinehart etc. “EthnographicWorldviews-Transformations and Social Justice” Springer press, pp. 39-48, 2013.5
- ⑤ 田中研之輔「都市型サービス産業の労

働現場-民間施設に従事する若年専門技術者の事例」町村敬志編『都市に潜む排除と反抗の力』明石書店、(2013. 2) pp. 122-145.

- ⑥ 田中研之輔「ストリートのコードーインナーシティの作法、暴力、まっとうな生活」ハーベスト社(2012. 3) “「Code of the Street: Decency, Violence, and the Moral Life of the Inner City」Elijah Anderson 1999 Norton” pp. 354.
- ⑦ 田中研之輔『「身体と魂ーシカゴゲットー、ある見習いボクサーのエスノグラフィー』(2011. 3) 新曜社 “Body & Soul: Notebooks of an Apprentice Box」Loic Wacquant 2004 Oxford University Press” pp. 406.
- ⑧ 田中研之輔「日雇い労働現場のフィールドワーク」『社会調査論』佐藤健二・山田一成編、八千代出版、pp. 209-225. (2009. 9) pp. 209-225.

[その他]

ホームページ等

<http://www.advancedurbanmarginality.com/>

- 6. 研究組織
 - 研究代表者
 - 田中 研之輔 (TANAKA, Kennosuke)
 - 法政大学・キャリアデザイン学部・准教授
 - 研究者番号：30513204